

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-186	高等学校	国語	論理国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
2 東書	論国 002-902	精選論理国語		

## 1.編修の基本方針

### ①言葉による見方・考え方を働かせ、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

- ・各単元扉に、その単元での学習目標を示すとともに、教材ごとに学習する主な目標も示しました。また、読解教材の「発問」や「学習の手引き」において、学習が効果的に行えるようなポイントを示しました。
- ・「探究編」に言語活動教材を配置し、その活動と読解教材との関連を図ることで、「書く」「読む」の学習が、有機的・効果的に行えるようにしました。

### ②論理的思考力や伝え合う力を育み、実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。

- ・論理的思考力を身につける教材として、文化・社会・科学などの分野の評論をバランスよく採録、配置しました。
- ・「論理の力」と題した教材では、論理的思考力を養うための学習を重点的に行えるようにしました。さらに、読解教材の「学習の手引き」に設けた「論理の力」の課題から、「論理の力」の教材にリンクさせ、関連づけて扱えるようにしました。
- ・「言葉のトレーニング」と題した教材では、特に「論理の力」や「探究編」の教材での学習と関連するものとして、さまざまな文章を読んだり書いたりする力を養う教材を採録しました。
- ・言語活動教材の学習過程や、読解教材の「学習の手引き」に設けた「言語活動」の課題において、話し合ったり、書いたものを読み合ったりする活動を取り入れることにより、「書く」「読む」の学習の中で伝え合う力を養えるようにしました。

### ③教材本文とコラム・附録とを有機的に関連させ、多様な学習に対応できるようにする。

- ・読解教材には「関連トピック」を掲げ、関連する資料や文章を探すヒントとなるキーワードを示しました。
- ・「論理の力を鍛えよう」や「文章を読み比べるために」、「図像を読み解くために」といったコラムでは、論理的な考え方や文章・図像の読み解き方について、分かりやすく示しました。
- ・「思考への扉」と題したコラムのシリーズでは、読解教材本文と関連づけながら、考えを深めるための切り口を提示しました。
- ・附録には、「評論読解へのアプローチ」「論文・レポートの種類と構成」「思考ツール」といった資料を用意し、多様な学習に対応できるようにしました。
- ・読書に親しみ教養を高めるために「読書案内」を掲載し、掲載教材に関連するテーマの図書を紹介しました。
- ・附録に掲載した「この教科書で学ぶこと」では、「書くこと」「読むこと」の各教材について、どんな事項を学習するのかを一覧で示し、学習の見通しや振り返りに生かせるようにしました。

## 2.対照表

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当箇所
I 部	1 思考のはじまり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソクラテスによる思考の比喩を通して、哲学的に考える方法やその意義について論じる評論を用意しました。(第1号)</li> <li>・ミロのヴィーナスの鑑賞を通して、そこに普遍的な美を感じる理由を考察する評論を用意しました。(第1号)</li> </ul>	→8～13ページ →14～20ページ
	2 新たな視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代アートの実例などを踏まえて、料理が芸術と見なされてこなかった理由の妥当性について、批判的に考察する評論を用意しました。(第1号)</li> <li>・事実を観察するという行為は、観察時の状況や観察者の持つ背景知識によって左右されることを述べる評論を用意しました。(第1号)</li> </ul>	→24～33ページ →34～40ページ
	3 人間を見つめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「分人」という概念をもとに人間関係の在り方を考察し、「私」という存在は常に他者との相互作用の中にあると述べる評論を用意しました。(第3号)</li> <li>・「キャラ」という観点から現代の人間関係の在り方を論じ、自らの単独性を得るためにはリアルな人間関係を歩んでいくしかない」と述べる評論を用意しました。(第3号)</li> </ul>	→42～51ページ →52～60ページ
	4 世界と向き合う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的に整序された語りから失われるものに目を向け、圧倒的な体験を語る・聞くときの姿勢について述べる評論を用意しました(第5号)</li> <li>・個人が世界から見出した法則の体系を「世界の理論」と名付け、その観点から科学と文学の共通点・相違点を論じる評論を用意しました。(第2号)</li> </ul>	→64～72ページ →73～79ページ
	5 学問のまなざし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「リスク」は自由のもとで決定がなされる場面では常に存在すると述べ、私たちの社会に不安が満ちているのは近代という時代の根本的な性質に原因があると述べる評論を用意しました。(第1号)</li> <li>・「環境」は常に何者かにとっての「環境」であるという認識から出発し、環境問題の捉え方について再考する評論を用意しました。(第4号)</li> </ul>	→84～92ページ →93～102ページ
	6 私たちの社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「する」価値と「である」価値という原理が、日本社会の諸問題を分析するうえで有効であることを述べる評論を用意しました。(第3号)</li> <li>・トグウィルが指摘した「民主的な社会」と「高尚な学問」との緊張関係を踏まえ、現代社会における科学の在り方を論じる評論を用意しました。(第3号)</li> </ul>	→104～117ページ →118～129ページ
	7 イメージを読む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人の伝統的で独自の美への感受性が、現代の我々の生活や行動に生き続けていることを述べる評論を用意しました。(第5号)</li> <li>・中世ヨーロッパで作られた地図を例に挙げながら、地図とは、異なる世界像を持つ人々の、世界に対する異なる理解を表現していると述べる評論を用意しました。(第1号)</li> </ul>	→132～145ページ →146～152ページ
	論理の力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「論理」とは何かということについて学び、論理的な思考をする態度を養う教材を用意しました。(第1号)</li> <li>・接続表現の意義と使い方を学び、文章の論理的関係を適切につかむ力を養う教材を用意しました。(第1号)</li> <li>・論証の説得力を「根拠」と「導出」という観点から分析し、適切に論証を把握する力を養う教材を用意しました。(第1号)</li> <li>・文章の「問い」と「答え」の構造に注目し、「答え」に当たる中心的主張を適切に取り出す力を養う教材を用意しました。(第1号)</li> <li>・質問することの意義や質問の種類を学ぶことを通して、適切に質問する力を養う教材を用意しました。(第1号)</li> </ul>	→156～157ページ →158～163ページ →164～167ページ →168～171ページ →172～176ページ

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当箇所
Ⅱ部	1 言葉を再考する	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字やフランス語を学んだ体験などから、異なる言語を行き来することについて考察する評論を用意しました。(第5号)</li> <li>言葉により世界が分節され、事物が生み出されることから、言葉は私たちの意識を形成し、世界創造の根源となると論じる評論を用意しました。(第1号)</li> </ul>	<p>→178～185ページ</p> <p>→186～193ページ</p>
	2 近代という時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>近代科学の自然観には生態系の維持と保護に反する発想が含まれており、それによって環境問題は生じてきたと述べる評論を用意しました。(第4号)</li> <li>現代社会を生きる私たちは、異世界を知ることによって現代社会の「〈自明性の檻〉」から解放され、新しい社会をつくる可能性を探ることができる」と説く評論を用意しました。(第1号)</li> </ul>	<p>→196～203ページ</p> <p>→204～213ページ</p>
	3 メディアを問い直す	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間と情報の関係が大きく変化した現在、かつて本が担っていた機能を更新させる方法を考えなければならないと述べる評論を取り上げ、更にテーマの関連する評論を2本用意しました。(第1号)</li> </ul>	→216～230ページ
	4 表現の効用	<ul style="list-style-type: none"> <li>注意書き文書の表現を分析し、文章の「形」には文章中の「時間」の流れや読者への印象を操作する力があると論じる評論を用意しました。(第1号)</li> <li>アンケート実験の回答結果を通して、人間の持つ「損失回避」という性質を、行動経済学の観点から説明する評論を用意しました。(第1号)</li> </ul>	<p>→232～241ページ</p> <p>→242～252ページ</p>
	5 通念を疑う	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的に語られる「シェア」の負の部分の考察することで「シェア」の本質を提示し、「シェア」概念の可能性を再検討する評論を用意しました。(第3号)</li> <li>環境負荷への対応を誤り、深刻な結果を招いた原始社会の例などを挙げ、原始社会を客観的に捉える必要性を説く評論を用意しました。(第4号)</li> </ul>	<p>→254～263ページ</p> <p>→264～270ページ</p>
	6 困難な時代に	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会・文化が壊れないためには、民主制・立憲制という理念、それを下支えする寛容の精神、煩雑さへの耐性が必要だと述べる評論を用意しました。(第3号)(第5号)</li> <li>フィクションは情報伝達における分業の在り方を描いていると述べ、情報技術の発展がフィクションにもたらす影響を論じる評論を用意しました。(第1号)</li> </ul>	<p>→272～280ページ</p> <p>→281～292ページ</p>
	7 人間のありかた	<ul style="list-style-type: none"> <li>「意志」を持つロボットとは、行動決定の仕組みがブラックボックス化され、「迷う」ロボットでなければならないと述べる評論を用意しました。(第1号)</li> <li>他者に対する暴力は人間が持つ虚栄心に起因するとして、欲望的存在である自己の在り方を変容させる倫理的努力が必要であると説く評論を用意しました。(第2号)(第3号)</li> </ul>	<p>→298～310ページ</p> <p>→311～320ページ</p>
	言葉のトレーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物学の論文についての解説記事を題材として、探究した成果を筋道立てて分かりやすく伝える方法について考える教材を用意しました。(第1号)</li> <li>地方都市の人口推移を、統計資料をもとに論じた文章を取り上げ、資料に基づいて筋道立てて論じる方法を考える教材を用意しました。(第1号)</li> <li>人口問題に関する文章と、それに関連するさまざまな統計資料を取り上げ、複雑なテーマについて多様な観点から問いを立て、考察する方法を学ぶ教材を用意しました。(第1号)</li> <li>「やさしい日本語」という概念を題材として、誰にでも分かりやすい表現の在り方を考える教材を用意しました。(第3号)</li> </ul>	<p>→322～327ページ</p> <p>→328～335ページ</p> <p>→336～345ページ</p> <p>→346～354ページ</p>
	探究編	<ul style="list-style-type: none"> <li>裁判員制度を題材として取り上げ、集めた資料を整理する活動を通して、社会の一員としての自覚を促す教材を用意しました。(第3号)</li> <li>高校生の読書量をテーマに、仮説を立てて検証する活動を通して、読書習慣を振り返る契機となる教材を用意しました。(第1号)</li> <li>メディアの比較を題材として取り上げ、論文を執筆して議論する活動を通して、主体的に議論を形成する力を養う教材を用意しました。(第3号)</li> <li>エコカーの普及を題材に、資料を活用して論述する活動を通して、気候変動への対策を考える教材を用意しました。(第4号)</li> </ul>	<p>→356～363ページ</p> <p>→364～371ページ</p> <p>→372～377ページ</p> <p>→378～385ページ</p>

### 3.上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 将来の進路の選択や、一般的な教養を高めることに資するよう、教材の中で多様なテーマを取り上げるとともに、読書案内を掲載して読書へといざなうように配慮しました。(学校教育法第51条2号)
- 社会人として必要とされる国語の能力の基礎を身につけることができるように、言語活動教材において、社会生活の中からテーマや課題を設定し、調べたことを多角的に検討して考えを深め、分かったことや考えたことを文章にまとめる学習を多く取り上げました。(学校教育法第51条3号)

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-186	高等学校	国語	論理国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
2 東書	論国 002-902	精選論理国語		

## 1.編修上特に意を用いた点や特色

### ①目標

・言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成するという「目標」を踏まえ、「内容」に示された「知識及び技能」の3事項と「思考力、判断力、表現力等」の2領域の学習が効率的・有機的に行えるようにするとともに、「学びに向かう力、人間性等」を十分に養うことができるように配慮しました。

### ②「知識及び技能」

- ・漢字および語彙については、読解教材の脚注欄に「注意すべき語句」を示したり、「学習の手引き」の後に「漢字と語彙」の問題を掲載したりすることで、意識的・継続的に学べるようにしました。
- ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするための語句を学べるよう、コラム「思考への扉」(4か所)や、附録「評論読解へのアプローチ」を掲載しました。
- ・「論理の力」と題した教材では、情報と情報との関係や情報の整理を含め、論理に関する内容を重点的に学べるようにしました。
- ・新たな考えの構築に資する読書へのいざないとして、単元扉で掲載教材に関連する本のタイトルを示し、附録の「読書案内」でそれらの本をまとめて紹介しました。

### ③「思考力、判断力、表現力等」の「A 書くこと」

・資料の概要をまとめたり、意見文や短い論文を書いたりする言語活動教材を用意するとともに、読解教材との相互関連を図りました。

### ④「思考力、判断力、表現力等」の「B 読むこと」

- ・教材については、「3 内容の取扱い」(3)アの観点に示された事項に留意して選定しました。
- ・教材には「関連トピック」を掲げ、関連する資料や文章を探すヒントとなるキーワードを示しました。
- ・「言葉のトレーニング」と題した教材では、さまざまな種類の文章を読み、考える力を養うことができるようにしました。
- ・文章の読み比べについて取り立てて学べるよう、コラム「文章を読み比べるために」を用意するとともに、読み比べに適した複数の評論教材を掲載しました。

## 2.対照表

単元	教材名	学習指導要領の内容			頁	配当時間			学期
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等			書	読	計	
			書くこと	読むこと					
<b>I 部</b>									
1 思考のはじまり	思考は風のように	(1)ア、イ、ウ	(1)ア、オ	(1)ア、エ	8	1	1	2	1 学期 24
	【論理の力】質問する力	(2)ア、ウ		(1)エ、カ	172		1	1	
	ミロのヴィーナス	(1)ア、イ、ウ		(1)ア、エ	14		2	2	
	【論理の力】つなげる力	(1)ウ／(2)ア		(1)ア、エ	158		1	1	
	■論理の力を鍛えよう	(2)ア		(1)エ	21		1	1	
	【論理の力】論理とは何か	(2)ア、イ、ウ		(1)ウ、エ	156				
2 新たな視点	料理は芸術といえるのか	(1)ア、イ、ウ		(1)ア、ウ、カ	24		2	2	
	【論理の力】論証する力	(2)ア、ウ		(1)ウ、カ	164		1	1	
	科学的「発見」とは	(1)ア、イ、ウ		(1)イ、カ	34		2	2	
	【論理の力】要約する力	(2)ア、イ		(1)ア、エ	168		1	1	
	【言葉のトレーニング】「へびににらまれたカエル」の生き残り戦略	(1)ウ、エ／(2)ア、ウ		(1)ア、イ／(2)ア	322		1	1	
	【探究編】仮説を立てて検証する	(1)エ／(2)ア、ウ／(3)ア	(1)ア、エ、オ／(2)イ		364			10	
	■探究学習へのアプローチ	(1)ア	(1)ア		386			10	
3 人間を見つめる	分人とは何か	(1)ア、イ、ウ	(1)ア、ウ、カ／(2)ウ	(1)ア、オ、キ	42	1	2	3	
	メディアの変容	(1)ア、イ、ウ	(1)ア、ウ、カ／(2)ウ	(1)ア、オ、キ／(2)エ	52		3	4	
	■文章を読み比べるために	(2)ウ		(1)ウ、エ、キ／(2)エ	61	1			
4 世界と向き合う	もどかしいまを口にする	(1)ア、イ、ウ		(1)ア、エ、カ	64		2	2	
	科学の営み、文学の営み	(1)ア、イ、ウ／(3)ア	(1)ア	(1)ア、オ、カ、キ	73	1	3	4	
	〔参考〕黄色の日	(1)ア		(1)ア、オ	80				
5 学問のまなざし	「リスク」と「リスク社会」	(1)ア、イ、ウ	(1)ア、エ、オ	(1)ア、カ、キ／(2)イ	84	1	2	3	
	「環境」とは何か	(1)ア、イ、ウ		(1)ア、カ、キ／(2)ウ	93		2	2	
	【言葉のトレーニング】長寿化・少子化と人口減少	(1)ウ、エ／(2)イ		(1)ア、イ、エ、カ、キ／(2)オ	336		2	2	
	【探究編】資料を整理し、テーマを吟味する	(2)ア、イ	(1)ア、イ、エ／(2)ア		356	8		8	
6 私たちの社会	「である」と「する」こと	(1)ア、イ、ウ		(1)ア、エ	104		5	5	
	思考への扉1 実在論vs.唯名論	(1)イ		(1)カ	130				
	科学の居場所を増やすには	(1)ア、イ、ウ	(1)ア、イ、オ／(2)エ	(1)ア、エ、キ／(2)オ	118	1	4	5	
7 イメージを読む	日本人の美意識	(1)ア、イ、ウ	(1)ア、イ、オ	(1)イ、オ／(2)ウ	132	1	4	5	
	地図の想像力	(1)ア、イ、ウ		(1)イ、オ／(2)イ	146		3	3	
	■図像を読み解くために	(1)ア		(1)イ	153				

単元	教材名	学習指導要領の内容			頁	配當時数			学期
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等			書	読	計	
			書くこと	読むこと					
<b>Ⅱ部</b>									
1 言葉を再考する	混じり合う言葉	(1)ア、イ、ウ	(1)ア、エ、オ	(1)ア、エ／(2)イ	178	1	2	3	1 学 期 24
	思考への扉2 言語的相対論	(1) イ		(1)カ	194				
	言語と記号	(1)ア、イ、ウ		(1)ア、エ	186		3	3	
	【言葉のトレーニング】やさしい日本語	(1)ア、ウ／(2)イ		(1)ア、エ、オ／(2)ア	346		2	2	
2 近代という時代	環境問題と孤立した個人	(1)ア、イ、ウ	(1)カ	(1)ア、エ	196	1	3	4	
	【探究編】資料を活用して論述する	(1)エ／(2)ア・イ	(1)ア、イ、オ／(2)エ		378	8		8	
	■引用の方法	(1)ウ、エ	(1)ウ、オ		390				
	鏡の中の現代社会	(1)ア、イ、ウ	(1)ア、オ	(1)ア、エ	204	1	3	4	
	思考への扉3 時代の幕開け	(1) イ		(1)カ	214				
3 メディアを問い直す	おじいさんのランプ	(1)ア、イ、ウ(3)ア	(1)ア、エ、オ	(1)ア、オ、キ／(2)エ	216	1	3	4	
	書物の近代	(1)ア、イ、ウ(3)ア		(1)ア、オ、キ／(2)エ	224		1	1	
	読み書きする身体	(1)ア、イ、ウ(3)ア		(1)ア、オ、キ／(2)エ	228		1	1	
	【言葉のトレーニング】地方都市を考える	(1)ウ、エ／(2)ア、ウ	(1)ア、イ、ウ／(2)ア		328		1	1	
	【探究編】社会的な話題に関する文章を読み、短い論文を書く	(1)エ／(2)ア／(3)ア	(1)ア、ウ、カ／(2)ウ		372	7		7	
4 表現の効用	注意書きを読む	(1)ア、イ、ウ、エ	(1)オ	(1)ア、イ、オ、キ／(2)ア	232	1	3	4	
	損失は避けたい	(1)ア、イ、ウ	(1)オ	(1)ア、ウ、カ	242	1	2	3	
5 通念を疑う	シェアの痛みから考える	(1)ア、イ、ウ	(1)ア	(1)ア、エ、カ	254	1	3	4	
	原始社会像の真実	(1)ア、イ、ウ		(1)ア、カ	264		3	3	
6 困難な時代に	社会の壊れるとき——知性的であるとはどういうことか	(1)ア、イ、ウ	(1)ア、イ、ウ	(1)ア、ウ、キ／(2)イ	272	1	4	5	
	思考への扉4 アボリア	(1) イ		(1)カ	296				
	虚実の間に	(1)ア、イ、ウ	(1) ア	(1)ア、オ	281	1	4	5	
	〔参考〕徒然草・虚実皮膜論	(1)ア		(1)ア、オ	293				
7 人間のありかた	ロボットは意志を持つか	(1)ア、イ、ウ		(1)ア、ウ、カ／(2)ウ	298		5	5	
	抗争する人間	(1)ア、イ、ウ	(1)ア、イ、オ	(1)ア、ウ	311	1	2	3	
(Ⅰ部・Ⅱ部)合計						50	90	140	3 学 期 18